



緑豊かな環境文化の創造と発展

ー ランドスケープコンサルタンツ協会・新ビジョン ー

平成22年4月

社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

CONSULTANTS OF LANDSCAPE ARCHITECTURE IN JAPAN (CLA)

緑豊かな環境文化の創造と発展

－ ランドスケープコンサルタンツ協会・新ビジョン －

平成22年4月

社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

CONSULTANTS OF LANDSCAPE ARCHITECTURE IN JAPAN (CLA)

はじめに

平成22年(2010年)4月1日、法人化25年を迎えた(社)ランドスケープコンサルタンツ協会(CLA)は、これからの協会活動の大方針をまとめた「新ビジョン」をここに策定いたしました。

ふりかえると初めて協会のビジョン「新しい環境文化の創造」を発表したのは今から15年前、平成7年(1995年)のことでした。続けてビジョンのアクションプラン(行動計画)となる「みどりの環境文化の創造」をまとめたのが平成11年(1999年)、バブル経済が破綻し、世紀末の混沌とした世相を受けて、アクションプランのまえがきでは、CLAの進路を荒海への船出にたとえたものでした。そしてこの10年間、私たちは、まさに嵐の海に漂う小舟のごとく、世界的不況、公共事業削減、発注方式変革等々の激しい雨風を受けています。

ビジョンとは、夢を語るもの、希望を示すもの、であります。しかし嵐の最中であって、ただ夢を語り、希望を未来に託すだけでは、「新ビジョン」に求められる役割を果たしたことはありません。嵐への的確な対処の仕方、嵐のあとになすべきことを明示して、この航海の目的—環境文化の創造—に到達するための指針を具体的に示すことが肝要です。

ここに示す「新ビジョン」は、この厳しい時代にみんながどのように立ち向かうべきかを、今求められる具体的指針としてまとめたものです。

私たちの職業の基盤である技術、造園は、日本はもとより世界各地で、古より絶えることなく継続発展してきました。また、自然との共生とサステナブルディベロップメントが叫ばれる地球環境の時代、なによりも命の尊さが求められる少子高齢社会にあって、水、緑、土、風、生き物などの自然素材を科学的・美的に扱い、都市や地域の人々の暮らしを豊かにデザインするランドスケープコンサルタントへの期待も、ますます大きくなっています。

コンサルタントの分野だけでなく、ランドスケープ領域すべての先導役として期待されるCLAは、新ビジョンとして『緑豊かな環境文化の創造と発展』を広くここに開示し、このビジョンを礎に、健全で生き生きとした協会活動を展開してまいります。さらに、自信と誇りと情熱と美的センスを持った高度な専門技術者を世に送り出す責務を果たしてまいります。

関係する皆さまのご理解とご協力、ご支援を切に希望する次第です。

平成22年4月

(社)ランドスケープコンサルタンツ協会 会長 **大塚守康**

はじめに

1. ランドスケープコンサルタントの現状と課題	1
1. 1. ランドスケープコンサルタントを取り巻く状況	1
1. 2. ランドスケープコンサルタントの課題	2
2. ランドスケープコンサルタントの仕事と展望	5
2. 1. 『緑豊かな環境文化の創造と発展』の理念のもとに	5
2. 2. ランドスケープの領域と技術	5
2. 3. 私たちの仕事の目標	6
3. ランドスケープコンサルタンツ協会のこれからの取り組み	8
3. 1. 取り組みの全体像	9
3. 2. 情報発信力の強化	9
3.2.1 政策提言等の情報発信	9
3.2.2 広報活動の強化	10
3.2.3 グローバル化への対応	11
3. 3. RLA資格制度の推進	11
3. 4. 多様なネットワーク形成と活動推進	13
3.4.1 市民・企業・行政との協働活動、地域との連携協定締結	12
3.4.2 関連諸団体と連携強化	12
3.4.3 異業種交流の推進	13
3. 5. 社会貢献活動の推進	13
3.5.1 防災対応の社会貢献	13
3.5.2 市民活動の支援	14
3.5.3 企業活動との連携	14

3. 6. 技術力の向上	15
3.6.1 業務領域の拡大に対応する技術力	15
3.6.2 業務分野の展開に資する技術力	15
3.6.3 高度情報化社会に対応する技術	16
3.6.4 コミュニケーション技術	17
3.6.5 伝統技術の保存継承	17
3. 7. 人材の確保と育成	18
3.7.1 若手のパワーアップ支援	18
3.7.2 セーフティネットの構築	18
3. 8. 経営基盤の安定化	18
3.8.1 業務環境の改善と適正なコンサルタント報酬の確保	18
3.8.2 成果の品質向上	19
3.8.3 企業倫理の堅持	19
3. 9. 行動計画の立案と推進	20
3.9.1 多様なアクションの展開	20
3.9.2 地方色を活かした活動の推進	20

資料編

1. ランドスケープコンサルタントの現状と課題

1. 1. ランドスケープコンサルタントを取り巻く状況

■ 私たちの業務

私たちランドスケープコンサルタントは、公園緑地をはじめとする国土の社会資本整備、多様な都市環境などの調査・計画・設計とマネジメント、また、森・川・海等自然環境の調査・保全計画、人々と生き物が共生する空間デザイン、これらの空間の管理と運営に至るまで、多岐にわたる業務を行っています。私たちは緑や環境にかかわるさまざまな業務を通じて、水、緑、土、風、生き物等の自然要素を「命ある素材」として効果的に扱うことによって、地域の自然、歴史文化に根ざしたプランニングやデザインを行い、事業者等を支援し、広く社会に貢献してきました。



1985年第1回(社)日本造園コンサルタント協会賞受賞 国営昭和記念公園「水遊び広場」(株)都市計画研究所 提供

■ 社会からの期待

そして今、私たちは、地球環境問題が顕在化する中で、地球温暖化対策や生物多様性確保などへの取り組み、ヒートアイランド対策等の都市環境改善への取り組み、美しい街並みや良好な景観に対する人々の意識の高まりを背景にした良好な景観形成に対する取り組み、人口減少社会における子育て支援、健康支援空間の創出など、希望を持てる未来の実現に対して社会からの高い期待を受けています。

また海外では、フランス、ドイツなどヨーロッパ



2004年CLA賞受賞 なんばパークス (株)ヘッズ 提供

各地での都市生活の質の向上を目指した脱車社会への取り組みの場や、都市再生にあたっての公共空間の質の向上等の場で、ランドスケープコンサルタントが重要な役割を果たしています。

米国北東部や中西部のラストベルト(Rust Belt＝錆の帯といわれるさびれた重工業地帯)の都市再生においても、公園・広場や街路樹の整備、緑化運動による街の景観改善が取り組みられ、ランドスケープ関係者がこの推進役となってます(参照:Parks & Recreation '08.7月号Francesca Lyman 著「空疎から繁栄へー縮小都市再考」高橋信行氏訳)。

こうしたランドスケープを重視する海外の動きは、我が国でも都心の再開発などで採用され、ランドスケープコンサルタントの活躍の場は着実に広がりつつあります。



フランス・パリ郊外 トラム(LRT)の風景
高野ランドスケーププランニング(株) 提供

■厳しい経営環境

しかしながら、このような期待や動向は、国内では首都圏など一部地域に止まり、全国的には必ずしも業務量の拡大につながっておらず、さらにリーマンショック、ドバイショックなどにより、公共・民間ともに一層業務量が少なくなっている状況にあります。また、公共関連業務においては入札制度の変革期にあり、低価格入札の問題や、プロポーザルの評価方式など、解決すべき課題も多くあります。こうした受発注状況の悪化により、コンサルタント経営は厳しく、雇用の不安定化を招いており、新規雇用の機会は減少し、今後必要とされるランドスケープコンサルタント需要に对应していけない状況を生み出しつつあります。

このような中、ランドスケープコンサルタントは、国民の期待に応じて持続可能な美しい未来の姿を創造して行く使命をどのように果たしていくのか、について解決策を見いだしていく必要があります。

1. 2. ランドスケープコンサルタントの課題

今、私たちランドスケープコンサルタントが直面する課題を、社会面、技術面、経営面からまとめると、以下のように整理されます。

■ 社会的側面

多様な社会の要請に応えるためにも、ランドスケープコンサルタント業務の対象領域の拡大を図らなければなりません。職能を確立し、業務領域を拡大しつつ、関連分野との協調を図りながら新たな業務展開を図ることが求められます。しかしながら、ランドスケープコンサルタントの職能、職域は、必ずしも社会から十分認知されているとはいえず、社会的地位のより一層の向上が課題です。

このため、社会に対しての情報発信をより強力に行い、また、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)資格制度の認知度向上を積極的に推進するなど、行政はもとより市民の中に、ランドスケープコンサルタントという職業をしっかりと認識してもらえるように各種の取り組みを進め、「ランドスケープコンサルタント」という職業の『ブランド化』を図ることが必要です。

具体的には、CLAからの情報発信の強化とともに、産官学や市民、NPO等の多様な主体とのネットワーク形成や、この連携等による社会貢献活動の推進などが求められます。

■ 技術的側面

知的サービス産業としてのランドスケープコンサルタントにとって、技術力の向上は最も重要な課題です。

新しい時代の社会からの要請に対応するには、第1に、業務領域の拡大、分野展開に即応できる技術の高度化、総合化が求められます。第2に、人と自然の共生技術、科学と芸術が共存するデザイン技術、高度情報管理技術等、新しい技術の開発が必要です。さらに第3には、多様な価値観が錯綜する中で社会資本の整備、良好な景観の形成、公的なオープンスペースのアセットマネジメント等を推進するための合意形成に資する計画技術の向上も必要とされます。

このため、造園という職業の基盤となる伝統技術の保存と継承に加え、これまで蓄積してきたCLAの50年にもおよぶ全国組織としての経験や国際的なネットワークを活用し、これらの技術的課題に対応していく取り組みが必要です。

一方、こうした技術力の向上とともに、若手技術者の確保と育成も課題です。時代適応力が高く、情報発信力を持った若手技術者を確保し、展望を持って計画的に先端技術者を育成するCLAの取り組みが求められます。

■ 経営的側面

私たちの業務は極めて社会性が高く、その成果が公共の福祉に直結するものであり、しかも非定型で、自然と人間の共生を扱うという難易度の高い業務が大半です。

しかしながら、公共関連事業においては財政難や規制緩和の趨勢から、経済性、効率性を重視した発注が行われ、また一般競争入札等にあつて低価格落札が増えることによりさらに次年度以降の価格を引き下げてしまうという負のスパイラルが全国的に広がっています。

CLAとしては、私たちの業務の特性からして発注方式としてプロポーザル方式、総合評価方式を採用するようクライアントに働きかける一方、低価格落札の問題を社会に提起するなどして、受注環境の改善に取り組んでいるところですが、今後もこの活動を継続拡大し、経営基盤の確保を図ることが大きな課題です。

2. ランドスケープコンサルタントの仕事と展望

2. 1. 『緑豊かな環境文化の創造と発展』の理念のもとに

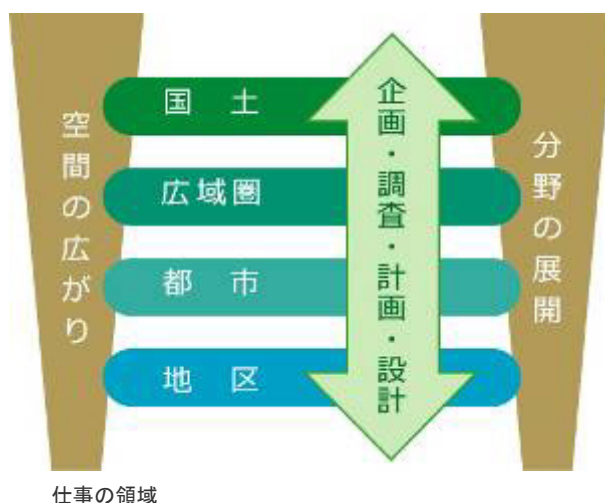
「環境の世紀」と言われる今、地球環境問題への積極的な対応と豊かな暮らしの実現が強く求められています。私たちランドスケープコンサルタントは、これまで長年にわたり「みどりの環境文化の創造」を理念に掲げて活動してきました。私たちには、環境文化と呼ぶにふさわしい歴史的な造園技術の資産や、先達から受け継いだ豊富な知見があります。これらを継承し、さらに磨きをかけながら次世代につなげていくことにより、地域文化の担い手として、さらには地球文化の振興に寄与する立場から、継続的に社会発展に貢献する役割を果たしていきます。

少子高齢社会を迎えた我が国にとって、コンパクトシティ化による緑豊かな都市環境の実現、市場経済優先から人間と文化優先の都市社会の形成が志向されています。私たちは新たに『緑豊かな環境文化の創造と発展』を理念に掲げ、すばらしい未来社会の実現に向けて、ランドスケープコンサルタントの仕事を着実に展開していきます。

2. 2. ランドスケープの領域と技術

私たちの仕事の領域は、都市地域から自然地域、農山漁村地域まで、公的な空間から私的な空間もしくは共的空間まで幅広い地域・空間が対象となっています。

都市地域の公園、広場、街路、河川などのパブリックスペースは、私たちも含めてそこに暮らし、働く人々にとって、憩いの場であると同時に、身近なアウトドアの学びの場、いざというときの避難の場など複合的な機能を持っており、ランドスケープコンサルタントによる計画、デザイン、仕組みづくりなどが



仕事の領域

求められています。自然地域では、自然環境の保全に関わる調査や計画ならびにその適正な利用に関する提案などをランドスケープコンサルタントが担っていくべき仕事といえます。農山漁村地域では、農地や里山、里海などのセミパブリックなオープンスペースが、食料などの生産の場であるだけでなく、生き物のすみかにもなっているなど、人間と自然が折り合いをつけながら、その機能を持続させてきた空間であり、持続可能な地域づくりに向けた調査や元気な地域づくりの支援が求められています。

私たちの仕事は、さまざまな空間の機能や暮らし、産業や文化を読み解き、どのような対象領域においても、そこに暮らす人々や生き物たちの存在を忘れることなく、その空間らしさを発現できる場をつくり出すことであるといえます。

このように、ランドスケープコンサルタントの仕事の領域は、空間としての広がりを持っているだけでなく、現場を知り、対象とする空間・地域のポテンシャルを調査・分析し、その空間・地域の将来像やあるべき姿を検討した上で提案する一連の過程を含めて、仕事の分野が幅広く展開しています。

このため、私たちは、今後ますます広がる仕事の領域を認識し、水、緑、土、風、そして植物や動物など生き物の存在を尊重したデザインが基本であるランドスケープの技術を最大限活かし、真摯な姿勢で仕事に向かいあっていきます。

2. 3. 私たちの仕事の目標

今世紀に入って、温暖化やそれに伴う自然災害の増大などの現象が、私たちの暮らしや産業に影響を与え始めています。私たちは、こうした地球規模の環境に関わる事態にも目を向けながら、より高度な水準で社会資本を蓄積していく業務を技術者として支援していくことを目標とします。

また、少子高齢化やライフスタイルの変化、市民参画意識の高まり等を受け、公園緑地やオープンスペースの使い方、使われ方も大きく変化しています。身近な生活の場がより快適に、より美しく、より安心して過ごせる場となるよう、よりよい空間・環境の計画・設計を進め、既に整備されたストックの管理・運営、マネジメントや、有効活用の提案も積極的に行っていくと同時に、市民や地域、企業や行政などのさまざまな主体が参画する協働型事業をコーディネートしていけるコンサルタントとなることを目指します。

そして、私たちの生活している場を持続的に維持するための社会システムの構築まで目を向けることも重要な目標となります。

行政に対しては、シンクタンクとしてその技術と能力を発揮し、市民にとっては、ガーデニングや参加型まちづくりなどで頼れる相談役となることを目指します。その地域の個性を熟知している技術者集団であるからこそ、緑や環境のホームドクターとして重用されるはずです。さらには、海外のプロジェクトに対して積極的に関与することもこれからの大きな目標です。

このように、私たちは仕事に関わる全ての過程で、地球にも人間にも快適で持続可能な環境を創造することを目標として、これからの仕事を展望し、私たちの技と知と感性を磨いていくこととします。

これからのランドスケープコンサルタントの仕事の展開方向(イメージ)

区分		空間領域					技術分野		
		地区	都市	広域圏	国土	国際展開	専門	総合	新分野
コンサルタント像									
政策立案者・シンクタンク		○	◎	◎	◎	○	○	◎	◎
技術提案者	高度エンジニア	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
	専門エンジニア	○	◎	○	○	○	◎	○	○
計画設計デザイナー		◎	○	○	—	○	◎	○	○
調査・アセスメント実施者		◎	◎	○	—	○	◎	◎	○
事業コーディネーター		◎	○	—	—	—	○	◎	○
パークマネジメント・指定管理者		◎	○	—	—	—	○	◎	○

【凡例】 ◎:関係性大 ○: 関係性中 —: 関係性小 (あるいは無)

3. ランドスケープコンサルタンツ協会のこれからの取り組み

3.1. 取り組みの全体像

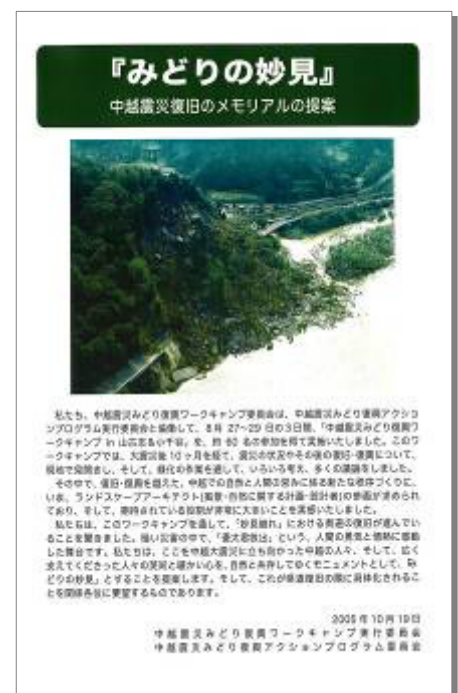
今、深刻な不況と財政難の中で、公共事業は悪だ、というような乱暴な論調がマスコミなどをにぎわし、本当に必要な社会資本整備さえ行いにくい状況が広がっています。

このような事態に対応してCLAは、経済・効率優先の風潮を人間・環境優先の方向に少しでも変えるために、ア. 経済団体、市民団体等との環境関連ネットワークの構築(都市緑化月間での諸活動等)、イ. マスコミを巻き込んだ各種のみどりイベントの展開(全国都市緑化フェアへの参画等)、ウ. 健康づくりや子育て支援等に寄与するみどりの普及啓発(支部でのワークショップの取り組み等)、エ. みどりを介した国際交流の推進(国際シンポジウムの共催、協賛等)等、各支部との連携による多角的な事業を展開し、『緑豊かな環境文化の創造と発展』の理念のもと、ランドスケープ業界の興隆につながる各種活動に積極的に取り組みます。

公益法人改革が進む中であってCLAは、一般社団法人をめざしつつもしっかりと公益性、公共性を活動の中心におき、たとえば中越地震の復興支援に取り組むなどの社会活動を通じてランドスケープコンサルタントの役割の浸透(＝ブランド化)を図ることで、着実に業務の拡大につなげ、業界としての経営の安定化に努めます。

一方、前記したように、ランドスケープコンサルタントを取り巻く環境には、さまざまな課題があります。

このためCLAでは、社会的な課題に対応するものとして、1. 情報発信力の強化、2. RLA 資格制度の推進 3. 多様なネットワーク形成と活動推進 4. 社会貢献活動の推進、に取り組むことをはじめ、技術的課題に対応する 5. 技術力の向上 6. 人材の確保と育成、に、さらに経営的課題に対応するものとして、7. 経営基盤の安定化、に取り組むほか、このビジョンをより具体的に展開するアクションプランとして、8. 行動計画の立案と推進、の全8項目を具体的な方針に掲げ、多様な活動を展開していくこととします。



「みどりの妙見」(平成 17 年 10 月)

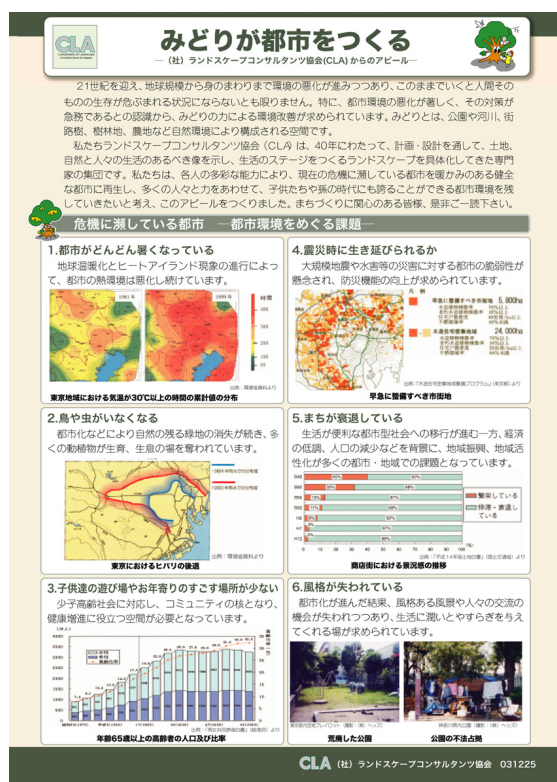


3.2. 情報発信力の強化

3.2.1 政策提言等の情報発信

国土交通省に対して行ったCLAの政策提言(平成15年12月)は、平成21年に国の公園施設長寿寿命化施策や安全・安心プロジェクト等につながっています。また、CLAが企画し共催した造園・環境緑化産業振興会主催の公園リニューアルシンポジウム(平成19年12月)の提案が一つの契機となって、公園再整備に対する国庫助成が実現しました。

CLAは、設立以降一貫して、ランドスケープの技術を用いて公園などさまざまな空間計画、設計、システム計画、公園等の管理・運営を行い、これらの経験を通して多様な技術、ノウハウを蓄積し、これを国や地方自



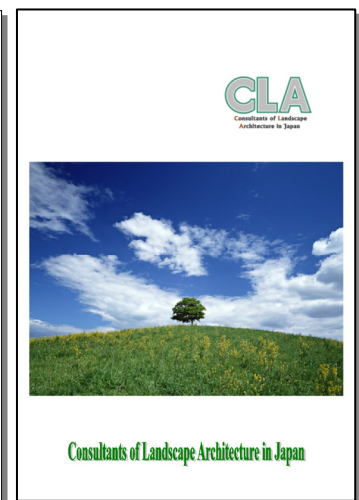
治体の都市環境施策等に反映すべく働きかけを行って各界から一定の評価を得ています。今後も、社会的に訴求力があるタイムリーな政策提言や災害に対する緊急アピール、パブリックコメントへの参加など、業務以外の場においても、CLA発の情報発信を行っていきます。

3.2.2 広報活動の強化

CLAの情報発信ツールとして、IT関連のホームページ、事務局だより、CLAinfo.のほか、冊子として機関誌「CLA journal」、CLAプレスキット(日本語版・英語版)等があり、また、自治体担当者等に向けた会員名簿や造園調査計画設計標準業務・報酬積算ガイドライン、さらに、事業や活動をまとめた報告書類等を多数発行しています。

今後のCLAの発信に不可欠なものに、CLAが常に情報を発信する存在感を示し、関係者はもとより、一般市民に広く理解と共感を獲得することがあげられます。「公園に行こう！」と思い立った市民が、まずCLAのホームページを検索するよう、「公園」「緑」「ランドスケープ」等に関するコンテンツの充実、会員スタッフの感性や考え方を共有するための掲示板、ブログや会議の場などの充実など、より効果的・効率的な情報ツールを活用しながら、支部の広報活動とも連携しつつCLAの広報活動の強化に努めます。

Landscape consultants take up the challenges in the course of 21st century Each country in the world is required to move forward together to save the beautiful earth and keep the nations of fine quality, and advocate the value of human society. Landscape consultants contribute the various factors to improve the standards of human life. Landscape consultants conduct protection of diverse landscape design that requires survey and analysis of natural resources and offer proposals for sustainable management of ecosystem, providing both practical and theoretical plan. Landscape consultants recognize the highest standard of professional services for landscape design to support human health, environmental protection and biodiversity.			Registered Landscape Architect (RLA) Landscape Architects made efforts to provide professional services as planners of gardens, parks and greenbelts and designers of landscape and environment, keeping with the times to contribute to the society in the past years. We are now in the new age that requires us new roles such as an environmental educator and a citizen-participating workshop coordinator, and moreover, the area of activities widening even on the global scale. Landscape architects are now encouraged to have key roles to approach the various factors to pursue professional duties on the basis of the highest standard of the profession. Landscape architects should recognize to learn and live up with the latest science and technology, and have insight into social structure to provide creative plans of landscape design for the new age. Landscape Architects are required to take large parts of environmental and cultural integration of both practical and theoretical aspects for landscape design. RLA (Registered Landscape Architect) is the system of qualification to discipline professional skill and recognize duties of a landscape architect.
CLA (Consultants of Landscape Architecture in Japan) is the sole association of the profession in Japan to lead the way described above, conducting duties as follows:			
Land use planning ■ Basic greenbelt plans ■ Ecological Networks ■ Improvement projects for rural districts	Operation for river, erosion & sediment control and the waterfront ■ Planning & design of ecological river ■ Planning & design of riverside parks & the waterfront		RLA System of Qualification RLA should be given to certificate quality of a landscape architect with higher-level skill and concern about the issues of safety, environment, health, culture and welfare needed to achieve his/her duties. RLA should prove the person who could provide the professional knowledge and skills on the same level of a world standard. RLA is expected to mutually recognize the qualification of the profession worldwide in the future.
Regeneration of natural resources ■ Survey of natural environment ■ Basic environment plans ■ Environmental assessment ■ National parks management plans ■ Ecosystem plans	Development of housing sites ■ The New Town Ecological Network Plan ■ Planning of public spaces		
Landscape planning ■ Surveys & plans of landscape project ■ Roadside planning	Private projects ■ Planning & design of these parks ■ Planning & design of golf courses & resorts		RLA Contents 1. Professional education: at colleges and related institution 2. Practical trainings (OJT): after having the profession (more than 3 years) 3. Examinations: academic subjects and practical techniques 4. Extending trainings (OPJ): in close cooperation with Landscape OPJ Conference
Parks & greenbelts planning ■ Planning & design for national parks and city parks ■ Planning & design for mass facility areas of natural parks	Operation for regeneration of towns ■ Commercial district regeneration & green roof designs ■ Garden designing ■ Symbolic space designing ■ Park planning for reclaimed lands ■ Reuse & reclamation of natural resources ■ Implementing resident-participating workshops		Conservation of traditional engineering ■ Planning & design & improvement of traditional Japanese gardens
Road projects ■ Planning of the road ■ Planning of cycling roads ■ Revision & design of roadside trees			Number of RLA (as of January 2007) 338



CLAプレスキット英語版

3.2.3 グローバル化への対応

私たちの仕事の場合は、日本全国はもとより、アジアをはじめ世界にまで広がっています。

また、国際化の波は海外においても顕著です。韓国では、国際コンペによる計画者の決定が日常的なものとなっており、チョンゲチョン(清溪川)再生事業や中心市街地の広幅員道路の全面緑地化などの先進的な取り組みを行っています。シンガポールでは、かつての住宅開発公社がコンサルタントとなり、都市計画やランドスケープの計画技術を国が支援して海外に売り込んでいます。このような業務のグローバル化に対してCLAは、以下の諸事業に積極的に取り組みます。

- ア. 国際間で通用する広い視野と高度な技術力を持った人材を育成する R L A 資格制度の推進
- イ. IFLA (国際造園家会議)、IFPRA (国際公園レクリエーション管理行政連合)、ICOMOS (国際記念物遺跡会議)、ASLA (アメリカ造園修景家協会) 等、国際的な関係機関との連携の強化
- ウ. 海外研修生等の受け入れの奨励
- エ. 国際シンポジウム等の企画運営



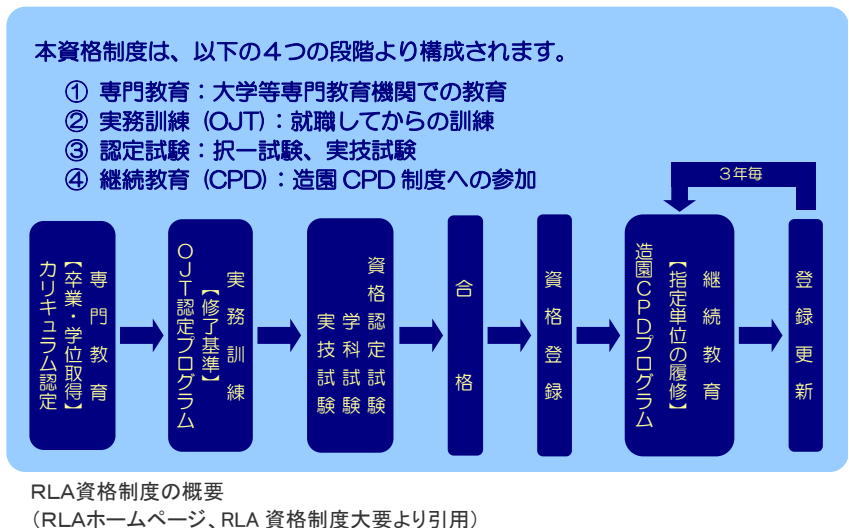
2006 年CLA賞受賞 誠品建築景観設計
(株)タム地域環境研究所 提供

3. 3. RLA 資格制度の推進

登録ランドスケープアーキテクト(RLA)資格制度は、CLAが平成 12 年8月より調査研究を開始し、2ヵ年の特別認定実施を経て、平成 16 年に認定試験が始まり、平成 22 年2月現在433名が登録されています。RLAは、近年、ランドスケープに関する技術保有を社会的に認知された資格制度として、クライアントからの評価も徐々に定着してきました。しかし、ランドスケープ技術者のうちまだ資格取得者が少ないため、この資格制度を関係者へのPRに努めるなど、社会的な評価の拡大等にさらに真剣に取り組む必

要があります。

このためCLAは、受験セミナーの開催等による資格制度の普及啓発を積極的に進めるとともに、RLA資格制度総合管理委員会の活動を多面的に支援し、また設立が予定されているRLAの会の立ち上げを側面援助するなどの方策により、RLA資格者の増大、RLAの認知度の向上、RLA資格の社会的活用の拡大等を図るものとします。



3. 4. 多様なネットワーク形成と活動推進

3.4.1 市民・企業・行政との協働活動、地域との連携協定締結

ランドスケープに係わる業務の中で、従来型の公共的なクライアントと計画者・設計者という関係ばかりでなく、今後は、市民の意向、意識、活動や企業の社会貢献の一翼としてのランドスケープの形成、それを行政の枠組みやそれ以外の枠組みで実現していくことがますます増大していきます。これに伴い、私たちには市民、企業、行政の間に入り、二者、三者がWin-Winの関係を作り上げていくコーディネーター能力が求められます。これに的確に対応していくためには、企画力、調整力、指導力等の能力を高めていくとともに、ホームページによる情報提供、シンポジウム・セミナー等の企画・共催や、市民や企業に対してのアドバイス、サポート業務の強化をすすめていきます。

また、災害時の協力協定や各種都市緑化活動支援等、地域社会と多面的に連携する協定締結に取り組み、いざというとき頼りになる「ランドスケープコンサルタント」のステータスの向上を図るものとします。

3.4.2 関連諸団体と連携強化

市民・企業・行政との連携、協働活動の強化とともに、(社)日本造園建設業協会、(社)日本造園組合連合会、(社)日本公園施設業協会、(社)日本植木協会、(一社)日本運動施設建設業協会およびCLAの6団体による造園・環境緑化産業振興会を核とした活動により、デザインアンドビルド、植物材料等

料等の生産連携、造園工事の建設マネジメント協力、リスクマネジメント協力などにより、一層のコストダウンを図りながら、高品質の空間造成を効率的にすすめていきます。さらに、(社)日本造園学会、(財)日本造園修景協会、(社)日本公園緑地協会ほか関連する公益法人等とも協力しあいながら、技術開発、ランドスケープ業界の地位の向上、学習機会の増大によるスキルアップ、新しい公園施設等の共同開発、施策立案力・構想力の強化等を目指すものとします。

3.4.3 異業種交流の推進

「つくる」から「つかう」へ、公共とともに、市民・企業との連携などの業務は、今後、ますますその多様化が予想されます。私たちには、温暖化抑止や生物多様性確保など、地球規模の環境問題を、国、地域、都市においてもその解決を図っていく責務があります。また私たちの周りには、国際化に伴う観光地整備や地域興しとなる観光振興、国外での業務遂行、また食糧－農の持続性や安全性の確保など、多くの課題がありますが、これらはランドスケープの技術力による解決や持続社会構築への貢献が期待されています。また、これらを新たな業務として商品化をすすめる必要もあります。

そのためにもCLAは、多様な情報の受発信、交流、業務連携、主体形成などに関する異業種交流を、ハードな土木・建築・都市計画業界はもとより、ソフトな観光サービス・社会システム開発・資源エネルギー分野・環境経済等の業界と積極的にすすめていくとともに、多様な官学界との交流についても積極的に図っていくこととします。

3. 5. 社会貢献活動の推進

3.5.1 防災対応の社会貢献

地震等災害時の公園等での避難活動支援や復興計画提案(阪神・淡路大震災時)、緑施策による災害地の復興支援(中越地震時)等、防災対応の社会貢献については、これまでもCLAおよび会員各社は積極的に取り組んできました。しかし、関東・東海・東南海地震等の発生予測も切迫性を持ってきており、また、地震以外の集中豪雨や暴風雨等の大災害も発生していることから、CLAのさらなる社



中越沖地震 自衛隊活動の様子(新潟県・みなとまち海浜公園)
(株)ヘッズ 提供

会貢献が求められるところです。

災害時には、被災者の自助、共助活動等の手助け、被災地の復旧支援等の活動が必要となりますが、CLAはその専門技術力を活かして、また多様なネットワーク形成によって、さまざまな局面で被災者・被災地支援を行うものとします。すでにCLA関東支部を中心に、かつて東京都や特別区の公園緑地部局と防災応援協定の締結を検討した経過もあり、これからも協定締結に向けての検討を深めます。

また、近年の大規模災害の復旧の中で、復旧事業のもととなる公園の災害査定の後回しや、不十分な査定により破損内容の一部にしか補助金が取れないなどの事例もあることから、CLAは災害査定を代行し、査定漏れを防ぐとともに、公園の階段をスロープに変えるなど、単なる復旧でなく利用ニーズに合った改修となるよう復旧計画を提案するなど、新しい防災対応の社会貢献にも取り組むものとします。

3.5.2 市民活動の支援

官から民へ、「つくる」から「つかう」時代へ変化
する中で、ランドスケープ空間のエンドユーザー
である市民の重要性がますます高くなっていき
ています。市民は、これらの計画、設計、管理運営
に関わる度合いが高まり、市民の発言力が高ま
ると同時にその責任も高く担うこととなります。

CLAではこれらに対し、敷地分析、計画条件
の整理、デザイン、材料の良否、管理運営のあり
方や市民の合意形成の手法、会議の運営、組織
の形成まで、さまざまな形で市民活動を支援して
いきます。



地域住民への計画・設計説明風景(東京都・東久留米団地)
(株)タム地域環境研究所 提供

3.5.3 企業活動との連携

成熟した市民社会の到来の中で、企業が社会的
貢献を果たすことを求められ、また、市民から
はこうした社会貢献の質と量により、企業を評価
するようになってきています。現在でも「飯能・西
武の森」(西武鉄道株式会社 所有、西武造園株
式会社 技術協力)など社有地の開放、大規模森



林型の公園などでのボランティア活動支援、ネーミングライツによる公園の整備、運営への参加など、公園緑地等の整備・管理運営面で企業の関与する場面が多く見られるようになってきました。

こうした企業活動のニーズと行政・市民とを結びつけることや、企業活動への事業の企画提案などが、CLAの連携活動として求められていることから、これらの社会貢献活動を積極的に行っていくとともに、いずれはCLAの経済活動につながるように取り組んでいきます。

3. 6. 技術力の向上

3.6.1 業務領域の拡大に対応する技術力

CO₂対1990年度比25%削減、生物多様性条約締約国会議(COP10)の名古屋開催、環境税の創設、少子高齢化による都市構造の変化(コンパクトシティ化)、歴史をキーワードにした国内観光の興隆、全世界的な日本文化や日本食への関心の高まり、都市公園の指定管理者制度導入など、ランドスケープコンサルタントが一步踏み出せば世界の趨勢に合致し、さらにこうした潮流をリードすることも可能な時代になってきました。

CLAはランドスケープコンサルタントの活躍の場を広げるために、これらの事項について積極的に情報収集・発信や勉強会・講座開催等を行っていき、今後ランドスケープコンサルタントに求められる技術力=「ランドスケープに関わることであれば何にでも取り組み、一定以上の質を伴った成果を出す力」を獲得するものとします。これは、協会員である一人ひとりの技術者が、ランドスケープに関する調査、計画、設計、マネジメントのどの業務にも対応できる能力を身につけていくことを目指すものです。

CLAは、さらに指定管理や民需などの業務領域へも、より積極果敢にチャレンジできる技術力の向上にも取り組んでいくこととします。

3.6.2 業務分野の展開に資する技術力

前項の業務領域の拡大とともに従来の計画、設計業務に加え、ワークショップによる市民意向の把握、合意形成、イベントプロデュース、建設マネジメント、パークマネジメントなどの新たな業務分野の展開が期待され、これに積極的に応えていくことが要請されています。

このためにも、CLAは、ランドスケープ関係はもとより他の業界とも積極的に交流し、会員各社が求める情報を提供可能となるネットワークを構築し、研修、セミナー、ニュース等で情報発信していきます。

とくに、少子高齢社会に対応して、安全・健康なコミュニティ形成に資する保健・福祉等の技術領域と

の連携など、従来の業務分野を大幅に広げる技術力の確保に努めることとします。

すこやか公園づくりアピール

身近な公園を私たちと未来のQOL向上に活かすために

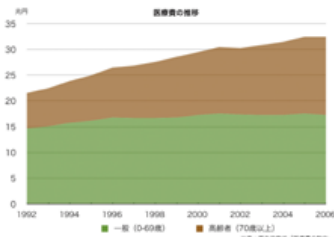


2010年1月
社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会
(仮称) CLA すこやか公園検討委員会

1. 医療費の膨張が暮らしを圧迫しています

今、私たち日本人が支出する医療介護費は年間40兆円を超え（H20年度）、毎年2%ほど増加しています。その額は家計総支出の13%にのぼります。

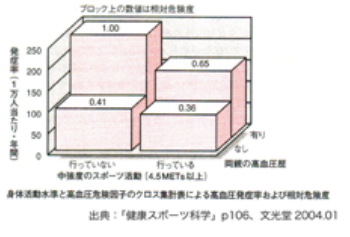
少子高齢化で生産人口が減少し、地球環境問題で経済活動が制約されようとしている私たちの未来にとって、医療費を抑制することはQOL（生活の質）を確保するために、非常に重要な課題となっています。



2. 健康活動は医療費抑制に効果があります

医療費は疾病の発生・重症化と関連し、これは「生活行動（健康行動）」と強い相関を持っています。特に重要な要因が「運動」「肥満（過食）」「喫煙」とであるとされます。

その中でも軽スポーツを中心とする「健康活動」が重要であることが最近の研究で、疫学的にも明らかになってきました。



3. 身近でコストのかからない健康活動機会が必要

しかしこれまでは「健康活動＝フィットネススポーツ」と見られ、健康活動はそのための施設（フィットネスクラブなど）で、コストを支払って行うもの、という意識が強くありました。そのため、年金生活の高齢者、地方生活者、低所得層や若者など、多くの階層の人々が、健康活動の機会から遠ざけられています。

5. 自然・ひと・健康の空間。それが「公園」です

私たちの身近にあり、だれもが利用できて、総合的な「健康活動」の機会を満たしてくれる可能性を持つ空間。それが「公園」です。今までの公園では、こうした視点にほとんど目が向けられてこなかったのではないでしょうか？

高密度な都市の中の単なる「オープンスペース」ではなく、私たちと未来のQOLのための「新しい公園づくり」が、今、求められていると考えます。



東京都足立区「花畑公園」
足立区では、毎週土曜日花畑公園で「パークで筋トレ」事業を実施しています。
写真は足立区HP、<http://www.city.adachi.tokyo.jp/>より転載

6. 日本の公園を「すこやか公園」にしていきたいと思います

今、日本には暮らしに身近な公園（住区基幹公園＝街区＋近隣＋地区）が84,506箇所（H21.3.31）あります。身近な公園は、毎日、歩いて行き、親しい人たちとともに、季節を感じ、会話を楽しみ、ともに汗を流す「健康な暮らし」の資源です。

私たちはその拠点となる「すこやか公園」を未来に贈りたいと思います。

.....➡
裏面の「すこやか公園への提案」をご覧ください。



みどりの環境文化創造をめざして
社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会

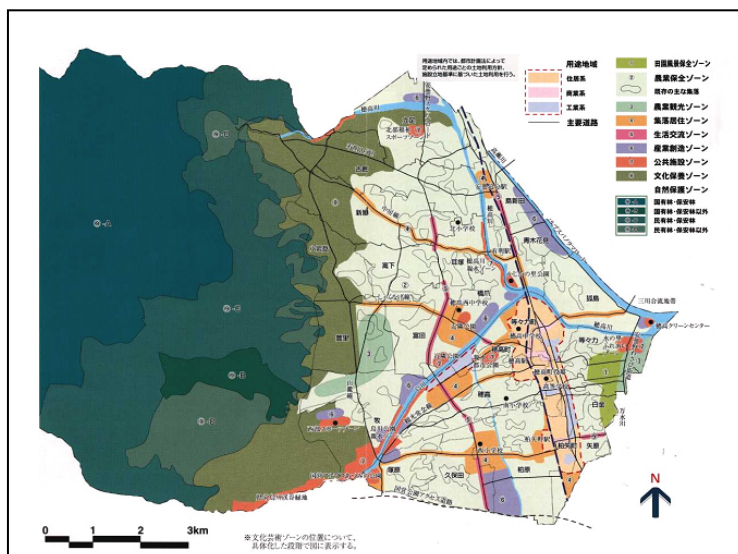
社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会
〒102-0082 東京都千代田区一番町9-7 一番町村上ビル2階
TEL：03-3237-7371 FAX：03-3239-7610
<http://www.cla.or.jp/>

すこやか公園づくりアピール(2010年1月) CLA関西支部 提供

3.6.3 高度情報化社会に対応する技術

インターネット普及や携帯電話の技術革新など、さらなる高度情報化が進む中で、業界内外から、GIS(地理情報システム)、CAD(コンピューター支援設計)、3D(立体画像処理)技術等の情報を求められる場面が多くなっています。

また、こうした高度情報技術の革新は、まちづくりや景観形成における合意形成の支援システムとしてもますます



GISを利用した計画事例 (株)KRC 提供

す評価されるようになってきました。

CLAではこれまで高度情報化社会に対応するランドスケープ技術セミナーなどを主催し、情報技術等の普及に努めてきたところですが、さらに高度情報技術の活用の局面が広がっているところから、先導的な計画・設計支援システム、公園管理等のデータベース化、市民参加の合意形成支援システム等、これからのランドスケープコンサルタントに求められる情報関連技術の普及啓発、技術習得、新技術の開発等に、積極的に取り組んでいきます。

3.6.4 コミュニケーション技術

きわめて社会性の高い業務に携わることの多いランドスケープコンサルタントは、その責務として、協働する市民や出資者の理解を得るなどのさまざまな人々との合意形成や、計画、設計、事業の意図、合理性や優位性への理解、共感などをクライアントから得るといったコミュニケーション技術の必要性がますます増大してきています。

このため、プレゼンテーション技術や質の向上、相手の立場の理解、議論を通しての合意形成等が必要であり、さらに、国際化に際しての会話力向上、加えてヒューマンエラー防止策など、業務遂行や社会貢献活動の円滑な推進等に必要なコミュニケーション技術の向上を目指すものとし、CLAによる各種講習会の開催など、さまざまなプログラムの実施に努めます。

3.6.5 伝統技術の保存継承

計画・設計業務の標準化・定型化が進む中で、設計・施工・管理の連携によるものづくりが、より一層重要になってきています。

特に、伝統的な庭園設計技術を有する業界として、この文化的資産や思想を確実に保存し、継承するために、CLA主催や(社)日本造園建設業協会などとの合同による見学会や講習会の開催、(社)日本造園学会や(財)日本造園修景協会等の主催する歴史文化イベントへの参加等を積極的に行っていきます。また、その活用場面として、広く国土計画、都市計画、農山村計画等の計画立案から環境デザインまで、幅広く展開を図っていくものとします。

3. 7. 人材の確保と育成

3.7.1 若手のパワーアップ支援

激しい競争の時代となり、建設コンサルタントの中でも最も労働環境が厳しいといわれるランドスケープコンサルタント業界において、若手技術者が現状をどのように評価しているかについてアンケート(平成 21 年度実施)をしたところ、①仕事のモチベーションは向上している、②10 年後もこの仕事を続けたい、という前向きな意見が過半を占めた反面、③労働環境への不満や業界不況などから将来が不安、という評価も多くありました(資料編を参照のこと)。

このためCLAは、業界として老壮青のバランスが必要との認識から、特に概ね 40 代以下の若手技術者が技術に自信を持ち、職業に将来性を感じられるように、若手のパワーアップを図っていくものとし、各種の技術講習会、気軽に誰でも参加できる交流サロンを開催するほか、CLA賞の拡充により若手技術者の顕彰を行うなど、多様な取り組みを展開します。

3.7.2 セーフティネットの構築

ランドスケープ技術者がやむを得ず他業界に転職する不幸をできるだけさけるため、若い技術者を中心に研究会、研修会等の勉強の場、交流の場を支部中心に設営し、情報ネットワークを各人が有することで、ひとつのセーフティネットとなる仕組みを構築します。

また、(社)日本造園学会、RLA資格制度総合管理委員会、設立が予定されるRLAの会等と連携して、造園 CPD 等を活用した専門技術のさらなる高度化と、会社単位にとどまらない組織的な人材育成プログラムの推進を図り、若者はもとより、高齢の技術者も、できる限り社会の要請に積極的に応じられるネットワーク形成を図るものとします。

3. 8. 経営基盤の安定化

3.8.1 業務環境の改善と適正なコンサルタント報酬の確保

「競争と効率化を第一義」とする社会背景により、公共事業における低価格落札など、今の業務環境

は課題が山積しています。高度な技術に対する信頼感、高品質な空間の持つ文化性などがないがしろにされ、また、専門家を専門家として扱わない業務が多くなる中で、ランドスケープコンサルタントの業務環境を少しでも改善し、みんなが健全に生きていける業界としていく必要があります。

CLAは技術委員会・業務委員会を中心に、各支部と連携して、入札、プロポーザルコンペなどの受発注の実態把握に努め、その改善のための取り組みを進めているところですが、今後は、CLA内部だけにとどまらず、ア.国、地方自治体等の発注者側技術者との連携、イ.(社)建設コンサルタンツ協会、(社)都市計画コンサルタント協会等と共同した業務の適切な発注方式の推進の取組み、ウ.(社)日本造園学会、造園関連公益法人等と合同の業務発注方式の研究、エ.造園・環境緑化産業振興会(関連6団体)による適切な公共造園工事の推進に向けての研究、等に精力的に取り組む、その成果を発注者のみならず、広く市民にも情報発信していくものとします。

また適正なコンサルタント報酬を確保するため、計画設計はもとより、ワークショップ、公園施設健全度調査、公園施設長寿命化計画立案等に関する標準歩掛かり、報酬積算ガイドライン等の研究と情報発信を継続して行います。

さらに、会員会社にあっても技術者一人一人の就業時間短縮等の職場環境の改善に努めるようCLAからの各種情報提供を行うものとし、加えて、良好な労働環境を構築する視点から技術者派遣、出向、ワークシェアリング等、多様な雇用の形態についても検討するよう、取り組んでいきます。

3.8.2 成果の品質向上

クライアントである地方自治体等のもとより、広く市民からの信頼感が高まるよう、業務の成果の適正な品質を保持し、さらにはより高度な水準の成果としていくため、計画設計業務における照査要領の確立等の設計技術、照査技術を向上する研究を深め、その普及を図るとともに、業務における照査システムの円滑化・適正化に取り組むものとします。また公共造園設計における設計プロセスのあり方についても、これまでの研究成果を活用し、関係者との合意形成を図るべく努力してまいります。

さらに品質管理(QC)の徹底とともに、ISO9000(品質マネジメント国際規格)の取得の推奨等、CLA会員各社の品質向上対策に必要な情報提供等の支援に努めます。

3.8.3 企業倫理の堅持

公共の福祉への貢献など、社会性が問われるランドスケープコンサルタントの業務遂行にあたっては、企業として社会への貢献を念頭に置き、コンプライアンス(法令の遵守)はもとより、ダンピング受注等、公正な競争を妨げる行為を行わないなど、企業倫理の堅持、徹底に取り組んでいきます。

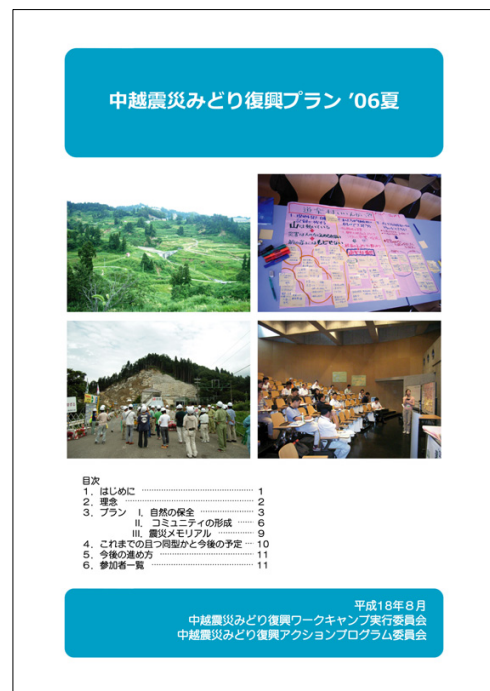
3.9. 行動計画の立案と推進

以上の新ビジョンの具体方針を受け、以下にはアクションプランとして早急に取り組むべき項目について、そのイメージを示すものします。

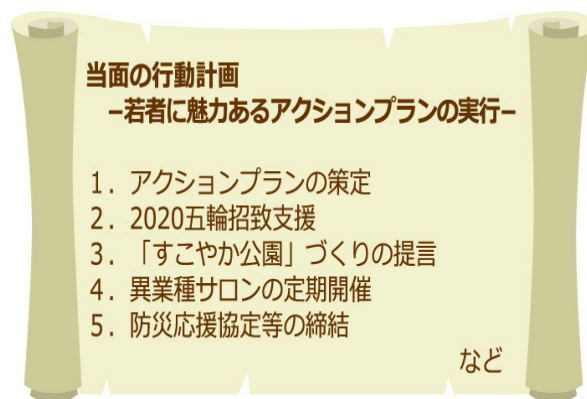
3.9.1 多様なアクションの展開

CLAが平成 17～19 年に実施した、中越震災みどり復興ワークキャンプは、中越地方の造園家とともに、みどりと震災に対する考察、崩壊した法面の緑化やブナの植林活動、山古志フィールドミュージアム構想の立案、提案などを行ってきました。この他、平成 19～21 年にかけては、東京オリンピック招致に向けて特別委員会を設け、シンポジウムの開催や提案など、さまざまな行動を会員の献身的な熱意の下にすすめてきました。

このような実績をふまえ、今後も組織として社会貢献を行うとともに、CLAとランドスケープコンサルタントの認知度の向上、関心の拡大、ひいては業務拡大につなげるべく、当面右欄に示した行動計画等に積極的に取り組むものとします。



中越地震みどり復興プラン'06 夏
(平成 18 年 9 月)



当面の行動計画例

3.9.2 地方色を活かした活動の推進

CLAの会員は、北は北海道から南は九州まで所在し、地域の実情に応じて、的確に専門的技術を駆使して良好な地域づくりを推進するランドスケープコンサルタントとして活躍しています。

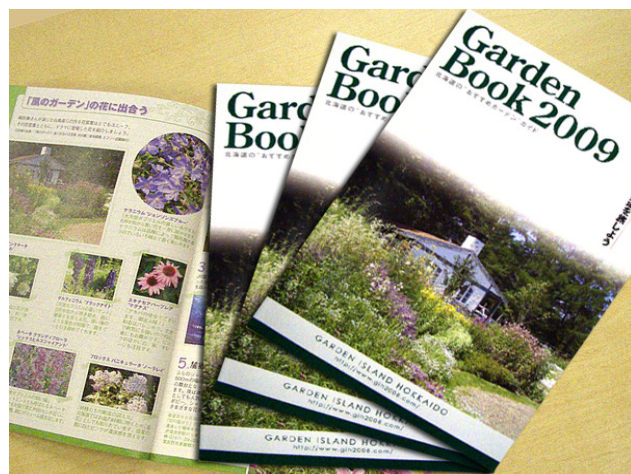
地方分権が進む中、地方発の多彩な活動は、私たちの地位を安定・向上させ、業務拡大につながっていくことが期待されます。

個別に支部活動の状況を見ると、北海道支部は、「ガーデンアイランド北海道」運動の中心的な役割

を担っており、美しい庭園島・北海道の推進役として、その活動は高く評価されています。東北支部は平泉の世界遺産登録の支援活動、フォトコンテストの実施などにより、CLA東北支部の知名度の浸透に成果が見られるようになっていきます。関東支部では、日比谷公園ガーデニングショー等の新規・継続の多くの事業に積極的に取り組み、産官学の連携事業の推進役としても、確固たる地位を獲得しています。中部支部、関西支部も、支部活動の長い蓄積を活かし、中部では愛地球博、COP10 など大規模イベントを積極的に支援し、関西でも花の万博、淡路花博、全国都市緑化フェア等の事業を担う中核組織として活躍するなど、その存在感はゆるぎないものがあります。九州支部も天神セントラルパーク構想の推進など、造園各界はもとより(社)都市計画学会等も巻き込んでユニークな活動を継続して行い、内外から高い評価を得ています。

支部のこうした特色ある活動は、地域の環境ドクター、みどりの普及啓発推進役として、CLA会員ステータスを確実に高めています。

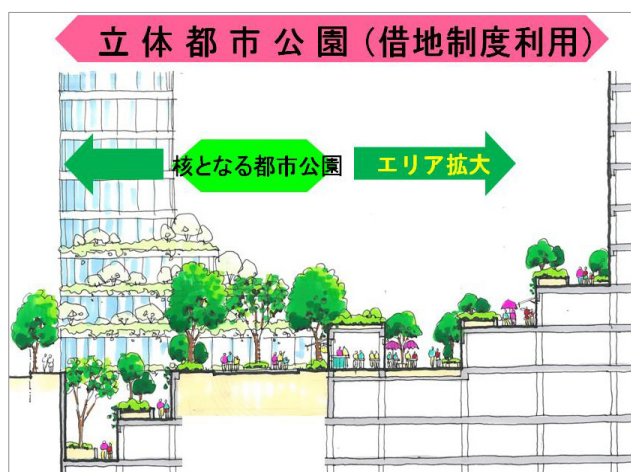
今後CLAは、支部の具体的な活動の成果を活用しつつ、①ランドスケープコンサルタント業務の健全な発展、②ランドスケープ技術の向上、③ランドスケープ事業の一層の拡充、を目指すとともに、CLAの公益法人改革の対応に合わせ、支部に関わる規約等必要な諸規程類の改正に取り組むことで支部組織の拡充を図るとともに、地方色を活かした協会活動の一層の推進を図るものとします。



北海道支部の協力で進められたガーデンアイランド北海道の紹介冊子



日比谷公園ガーデニングショー 会場の様子



天神セントラルパーク(立体都市公園)イメージ

